

## 駿河ほねほね団活動報告

伊藤風香・藤井日向子・田口快征

### 伊藤風香

9月から参加させていただき、アカネズミとヒメネズミの剥製を作りました。鹿の解体や蚕の解剖はやった事があるのですが、剥製作りは人生はじめての体験でした。身体が大きめなアカネズミを担当させていただいたのですが、鹿に比べて体がずっと小さく、皮が薄い分、どの程度力をいれても大丈夫なものか分からずとても怖かったです。それでも教えていただきながら、なんとか皮を剥ぐことができました。次に剥製の形を整えるため、石粉粘土をこねてネズミの皮を被せ、生きていた頃の体の再現をしました。経験不足のため、形を整えることが作業の中で最も大変でしたが、イメージで筋肉や骨の事を考え形にしていくと、剥ぐ前のネズミの体つきが見えてきました。皮を調節し、身体の形を整えたら人形用の義眼をさし、身体を台座に固定して、調整して完成でした。少し身体が長いけどアカネズミだねと褒めてくださり、とても嬉しかったです。剥製は生きていた時の様子を再現するもので、とても貴重な記録だと思います。研究活動の為に奪ってしまった命のため、ちゃんとネズミの体の構造や動いている時の様子を知り、もっと良い標本が作れるよう努力できればと思いました。

### 藤井日向子

縁あって今年の春からこの活動に参加させていただくようになりましたが、大学生になった頃はまさか自分が骨格標本を作るようになるなんて考えもしていなかったため、初めて参加した時とても緊張したことを今でも良く覚えています。しかし新しい事を知る・体験する事が好きな私にとって標本作製はもちろん、活動されている皆さんとお話する時間もとても刺激的な時間となりました。

活動に参加してから今までウサギ、モニター、イノシシなど様々な生き物を扱いましたが、最もインパクトがあったのは初めての標本作成で扱ったケヅメリクガメです。最初、カメと聞いて15cmくらいの甲羅のカメを想像していた私は、事務所の机に鎮座した巨大な甲羅を持ったリクガ

メを見た時、初めてでこれは無理だろうと尻込みしました。ケヅメリクガメの重さに苦勞し、翌日筋肉痛になるほどでした。それでも、学べた事は沢山ありました。初めて使ったメスの切れ味、そのメスすら苦戦させるケヅメリクガメの皮膚の硬さ、骨やそれに着く筋肉の形、片腕を体内に突っ込み内臓を取り出した時に触った肉の感触、そして死んだ爬虫類特有の例えような臭い。この臭いは本当に強烈でした。生まれてから約20年、経験したことのない強烈さで、それは未だ更新されていません。しかしこの臭いも、骨格標本作りを体験しなければ一生知ることがなかったと思うと、良い思い出です。この時のケヅメリクガメの鱗を加工したストラップは私の通学カバンについています。鱗を見る度に、あの時触った皮膚や肉の感触、そしてあの臭いを思い出します。それと同時に、自分が知らない事がまだまだ沢山あることに心が踊るのです。

### 田口快征

アカネズミとヒメネズミの頭骨と骨盤を対象に研究を行っている高校2年生の田口です。駿河ほねほね団には昨年からは静岡大学FSS(未来の科学者養成スクール)を通じて、活動に参加しています。私の研究は、近縁種であるアカネズミとヒメネズミの骨格を調べて2種の進化学的な関係について探るというものです。この研究では解剖を行いネズミから、小さな骨を取り出す必要があります。数をこなしても集中力のいる作業ではありますが、一つ前の標本よりも綺麗に…!と思いながらこだわって作業するのが毎回の密かな楽しみだったりします。綺麗な標本が出来た時は、活動初期から薄れることのない大きな達成感が込み上げてきます。特に、頬骨弓基部を出し終えた時の達成感たるや、僕が今までに感じたさまざまな感動の中でも、トップクラスのものであることは間違いないです。単にデータやサンプルを集める、というだけではなく、それらの作業の中にある、面白さや楽しみのようなものを感じつつ作業を行えると、より一層活動が捗ります。今後も活動を通して自然科学について勉強していきたいと思っています。